

利尻島国保中央病院院長 西野徳之^{さん}



「評判の名医たち」 ②

都市部への医師の集中で、道内の過疎地は医師の確保に四苦八苦している。そんな中で、自治医大出身の青年医師が、離島の医療に体当たりでぶつかっている。プライマリケア（初期診療）を重視し、慢性病の管理だけでなく、悪性腫瘍の早期発見・治療を徹底する患者本位の医療は、都会の病院にも新鮮な刺激を与えている。

「地域住民の健康を守るために精いっぱい診療に努めています。離島の小さな病院では、医療スタッフや施設の不足があるのも事実です。脳出血や脊髄損傷といった重症患者は、ヘリコ

プターで札幌医大などへ運ばなければなりません。離島でできることと、できないことを見極めることが大切ですよ」

利尻島は、稚内市の西約六十キロ。人口は利尻、利尻富士の二町合わせて一万人弱。島外搬送の必要な患者は年間三十一四十人で、多くは定期船で市立稚内病院へ搬送する。ヘリで運ばなければならぬ患者は年間五人前後で、ほとんど札幌へ送っている。

「ヘリ搬送は夜間が多いのですが、現

にしのみゆき 1961年、留萌管内天塩町生まれ。87年、自治医大卒。旭医大第三内科、市立稚内病院などを経て90-92年に続き94年から院長として二度目の勤務。日本消化器内視鏡学会認定医。
〒097-004 宗谷管内利尻町
杏形緑町 ☎01638・4・2626

状では、道警のヘリが出動できないと決まってからでなくては、航空自衛隊に要請できません。この三年間で約十件の夜間搬送のうち、道警のヘリが飛んだのは一度だけ。患者さんを一刻も早く運んで治療してもらうため、初めから航空自衛隊に要請できるように、道など関係機関に早急な改善をお願いしています」

利尻島国保中央病院は四十八床で、常勤の内科医が二人、外科医一人、看護婦十八人。全島の患者の約七割、夜間も休日も関係なく駆けつける救急車の九割以上を引き受ける。島の中核病院としての役割が年々高まっている。

「がんなどの重大な病気は、自覚症状があるとは限りません。医師の役目は、今かかっている病気の治療だけでなく、陰に潜む病気がないかどうかを見極めることです。患者さんが将来も元気に暮らせるようにお手伝いしたい。そのため高血圧の患者さんにも胃カメラを、糖尿病の方にも大腸内視鏡の検査を勧めています」

内科医の二人で胃カメラ、超音波検査は年間各千件、大腸内視鏡は同じく二百件の数。超音波内視鏡も備え、膵臓や胆のうの内視鏡検査や治療にも積